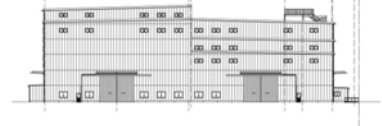


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本ホイスト株式会社 静岡工場新	階数	地上2F
建設地	0	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2019年2月15日
敷地面積	52,234 m ²	作成者	鳥居 博
建築面積	12,595 m ²	確認日	
延床面積	12,812 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 97%

③ 上記+②以外の: 97%

④ 上記+: 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡2016年版による評価結果である。</p> <p>建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。</p> <p>建築物の環境負荷については、高性能な外皮を採用して環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるように配慮している。</p> <p>また、仕上材に耐久性の高いものを採用し、更新必要間</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱性の高い材料を採用し、熱負荷抑制に配慮している。</p> <p>また、LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。</p> <p>また、外壁の仕上材にALCを採用し躯体と容易に分別できるように配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される